二十三　トレミキシンを用いた吸着式血液浄化療法　特発性肺線維症（急性増悪の場合に限る。）
二十四　腹腔鏡下センチネルリンパ節生検　早期胃がん
二十五　オクトレオチド皮下注射療法　先天性高インスリン血症（生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。）
二十六　アルテプラーゼ静脈内投与による血栓溶解療法　急性脳梗塞（当該疾病の症状の発症時刻が明らかでない場合に限る。）
二十七　Ｓ－１内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法　腹膜播種を伴う初発の胃がん
二十八　放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法　初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫（病理学的見地からびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。）
二十九　ＦＤＧを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断　不明熱（画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。）
三十　ＦＤＧを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断　アルツハイマー病
三十一　全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法　全身性エリテマトーデス（初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。）
三十二　術前のＴＳ－１内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法　根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん（洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。）
三十三　ＮＫＴ細胞を用いた免疫療法　肺がん（小細胞肺がんを除き、ステージがⅡＡ期、ⅡＢ期又はⅢＡ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。）
三十四　ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法　閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病（血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。）
三十五　内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術　根治切除が可能な胃がん（ステージⅠ又はⅡであって、内視鏡による検査の所見で内視鏡的胃粘膜切除術の対象とならないと判断されたものに限る。）
三十六　腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンＣ腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法　腹膜偽粘液腫（画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。）
三十七　^{11}Ｃ標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断　頭頸部腫瘍（原発性若しくは転移性脳腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。）又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。）であり、かつ、再発が疑われるものに限る。）
三十八　術前のＳ－１内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法　切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん（ＨＥＲ２が陽性のものに限る。）
三十九　上肢カッティングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術　骨端線障害若しくは先天奇形に起因する上肢骨（長管骨に限る。以下この号において同じ。）の変形又は上肢骨の変形治癒骨折（一上肢に二以上の骨変形を有する者に係るものを除く。）
四十　リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法　特発性ネフローゼ症候群（当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。）
四十一　内視鏡下手術用ロボットを用いた内視鏡下咽喉頭切除術　中咽頭がん、下咽頭がん又は喉頭がん（ＴＮＭ分類がＴｉｓ、Ｔ１又はＴ２、Ｎ０及びＭ０である患者に係るものに限る。）
四十二　ステロイドパルス療法及びリツキシマブ静脈内投与の併用療法　特発性ネフローゼ症候群（当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性ステロイド抵抗性のものに限る。）
四十三　カペシタビン内服投与、シスプラチン静脈内投与及びドセタキセル腹腔内投与の併用療法　腹膜播種を伴う初発の胃がん
四十四　周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法　非小細胞肺がん（ＣＴ撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。）
四十五　コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法　半月板損傷（関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。）
四十六　ＬＤＬアフェレシス療法　閉塞性動脈硬化症（薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡＢ度以上のものに限る。）
四十七　自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術　僧帽弁閉鎖不全症（感染性心内膜炎により僧帽弁両尖が破壊されているもの又は僧帽弁形成術を実施した日から起算して六ヶ月以上経過した患者（再手術の適応が認められる患者に限る。）に係るものに限る。）
四十八　骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法　腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損（上顎にあっては連続した三分の一顎程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一顎程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。）
四十九　テモゾロミド用量強化療法　膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）
五十　ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術　再発翼状片（増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。）
五十一　多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療　褥瘡又は難治性皮膚潰瘍（美容等に係るものを除く。）
五十二　ｍＦＯＬＦＯＸ６及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法　胃がん（腺がん及び腹膜播種であると確認されたものであって、抗悪性腫瘍剤の経口投与では治療が困難なものに限る。）
五十三　^{131}Ｉ－ＭＩＢＧを用いた内照射療法　難治性褐色細胞腫（パラガングリオーマを含む。）
五十四　ＦＯＬＦＩＲＩＮＯＸ療法　胆道がん（切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものに限る。）
五十五　内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術　子宮頸がん（ＦＩＧＯによる臨床進行期分類がＩＢ期以上及びⅡＢ期以下の扁平上皮がん又はＦＩＧＯによる臨床進行期分類がＩＡ２期以上及びⅡＢ期以下の腺がんであって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。）
五十六　^{11}Ｃ標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断　初発の神経膠腫が疑われるもの（生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。）
五十七　自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療　胸髄損傷（損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺（米国脊髄損傷協会によるＡＩＳがＡである患者に係るものに限る。）を呈するものに限る。）